

こども通信

塚田こども医院

上越市栄町 2-2-25
 TEL(0255)44-7777
 FAX(0255)44-8456
 時間外090-3333-4388
 E-mail tsukada@
 kodomo-iin.com
 ホームページ http://www.
 kodomo-iin.com/

事故予防のヒント

ベランダや窓からの転落事故では、頭から落ちていくのでとても危険。ベランダなどには踏み台になる物を置かないように気をつけて。

も彼らがだ
 んだん「大
 人しく」
 なってしま
 うのは社会
 にとつて損

一年で一番短い月に入りました。おまけに新潟では一番寒く、雪が多くて過ごしにくい月。嫌われ者みた

いですが、判官鼻^{はんがんびしき}の私は二月の肩をもつことにしています。

子どものころ、三人兄弟の末っ子で育ち、好き嫌いが激しくて体格も小さく、おまけに早生まれの私は、みんなの後をついて遊んでいました。ハンディをもって生きていくのは大変なんだと、子ども心に感じた

ものです(オーバーかな?)。そして、弱いからこそ強くなれるんだと思

うようになりまし
 た。

体力では負けるから、その分、智慧を使ってみんなを負かす方法を考えました。先生や



他の人に気に入られるすべも、自然と身につけていったようにも思いますが(そんな自分がイヤでしたが)。

猿の集団では、権力闘争に敗れたものが離脱していきます。その猿は生きていくために新しい食べ物や生活の場所を見つけていますが、それをボス猿たちは取り込んでいき、集団がまた豊かになっていきます(その猿はまたはじきだされませんが)。

日本人は同じ姿をし、同じ行動をとるのが好きなようです。たまには

変わり者がいて、新しいこと、面白いことをやってくれるといいのにな、と思います。

先月は「新成人」が大騒ぎをしていました。困ったことだとは思いますが、で

なことなのかもし
 れません。

* *

これまで毎週や臨時の「感染症情報」を電話、FM上越、上越有線放送、インターネットなどを通じてお伝えしてきました。さらに、i-Mode携帯をお持ちの方に直接送信するサービスを先月より

行っています(パソコンでも結構です)。ご希望の方はどこまでご連絡下さい。

ポリオ予防接種(任意)を行っています。ワクチンの都合上、ある程度まとまって受けていただくことにしています。次の接種日は三月十七日(土)です。

感染症情報

先月(1月)もインフルエンザの流行はおきませんでした。多くの方に予防接種を受けていただくようになってきたことも影響していると思います。今シーズン、このままで終わってくればという期待があります。しかし、春先にみられるB型は昨年流行していなかったため、その分今年は心配です。やはり、十分に注意して下さい。

水ぼうそう(水痘)、おたふくかぜ(流行性耳下腺炎)が昨年に引き続き流行しています。規模は小さくなってきていますが、まだ続きそうです。嘔吐下痢症は冬場に繰り返しはやる感染症で、今冬もやはり目立ちます。これらは家庭、園、学校などの集団の中で一人でも患者さんができると周囲の人に感染させていきますので、注意が必要です。溶連菌感染症も目立ちます。

先月はしか(麻疹)のお子さんがおられました。接触した可能性のある子でまだ予防接種を受けていない場合は、その場で緊急にワクチン接種を行い、二次感染はおきませんでした(2面参照)。今のところ流行のおそれはないでしょう。

i-Mode携帯へ、毎週や臨時の感染症情報をお送りしています。ご希望の方は、メールなどでお知らせ下さい。

当院から [感染症情報] を毎週お伝えしています 0255-44-5959情報番号5555 (無料) FM-J(エフエム上越76.1MHz)=金曜13:30~ 上越有線放送=月曜18時~

今月の予定

上越市の予防接種(麻疹、風疹、三混、日脳)
 火、金 午後1:30~2:30
 月、火、木、金 午後4:30~5:00
 乳幼児健診、任意の予防接種
 毎週木曜 午後1:30~2:30
 院長出務
 上越市休日診療所 4日
 上越市乳幼児健診 7、14、28日
 上越保健所管内市町村研修会 21日
 「予防接種の副作用への対応」
 有線放送「健康ライフ」17日朝6時-
 「冬の病気/インフルエンザなど」
 FM-J「あつまれ元気っ子」(当院提供)
 毎週水曜午後4:35~(76.1MHz)
 7日五智保育園、14、21日マリア愛児園、28日高田幼稚園

はしかの予防接種は 一歳過ぎてすぐに!

はしか(麻疹)は、もう昔の病気のよう
に思われているかもしれない。でも、かかっ
てしまうととても怖い病気です。日本では、
今でも亡くなる子どもたちがでていま
す。

はしかは重い病気

初めは鼻水、咳、熱といった普通の風邪と同じような症状です。三、四日後に、より高熱になり、咳がひどく、

各地で乳幼児医療費拡充へ

全国各地から、制度拡大のニュースが飛び込んできます。東京都では外来医療費の対象年齢を、10月から就学前にまで引き上げます。所得制限は、670万円から780万円以下(子ども2人の場合)に引き上げ。新潟県とは違って、窓口での負担はありません(新潟は月530円×4回まで負担)。

となりの富山県では、35市町村のうち33市町村が、未就学児の外来医療費の助成をすることになりました。

本県では、現在知事査定が行われ、中旬には新年度の予算案が公表されます。知事からは具体的な数字はまだ示されておらず、やきもきしています。このままでは、「新潟県では子育てしたくない」などという話も出てきそうです。

今こそ、知事の英断が求められています!

発疹(赤いブツブツ)が全身にでてきます。

ぐったりして、とても具合が悪そうに見える(本人は相当つらいはず)。

肺炎や脳炎など、重症になる

こともまれではありません。

伝染力がとても強く、空気中にウイルスが残っていて、直接接しなくてもうつることがあります。

ワクチンで予防を

はしかを防ぐには予防接種が一番。九八%以上の方に十分な免疫ができると言われています。免疫があれば、はしかの子に接触してもかかる心配はありません。

はしかの潜伏期は約十日。一方、ワクチンによる免疫は七日程度でできるので、はしかの子と接触しても二、三日以内にワクチン接種を行えば、はしかにかかることを防いでくれます(ワクチンの緊急接種)。

赤ちゃんでは、お母さんからの移行免疫が残っていると、感染を防いでくれます。お母さんがはしかにか



かったことが

あるか、予防

接種を受けた

ことがあれ

ば、生後半年

ほどは大丈夫

かと思いま

す。そうではない場合や、生後六か月以上の赤ちゃんは、やはりワクチン接種により予防する必要があります(この時は、一年後くらいにもう一度接種を受けて下さい)。

ワクチンの受け方

法律に定められている定期の予防接種(無料)は一歳からできます(七歳半まで)。多くの市町村では希望する医療機関で個別に受けるようになっています。この年齢のワクチンを受けるときは、有料の任意接種を受けていただくこととなります。

一歳のお誕生日を過ぎたら早めに予防接種を受けて下さい。あなたのお子さんはもうすんでいますか? 記憶が定かでない方は、今、母子手帳の記録を見直して下さいね。

【参考】日本でははしかの予防接種を受

けないでいる方が増えてきました。海外、とくにアメリカなどでは接種を受けていないと学校に入学できないなど、大変厳しく対処しています。なぜなら、はしかにかかって困るのは本人だけではなく、周囲の子どもたちだからです。実際には、日本人が持ち込んでいるのだそうです。

インフルエンザ 治療に新薬登場

新しいインフルエンザ治療薬が、今日二日に登場しました。これまでインフルエンザの薬は「シンメトレル」という飲み薬がありましたが、これはA型しか効かず、まためまいなどの副作用や、使っているとその薬が効かない耐性ウイルスができやすいなどの問題がありました。

今回は「タミフル(内服)」と「リレンザ(吸入)」が保険薬として認められましたが、両方ともA型だけではなくB型にも効果があります。現在は大人のみに適応なので、小児科では使いにくいのですが、いずれ小児用の薬も発売されると期待しています。